

2. 感動から教育実践につながる校内研修の取り組み

教員はAT・ICTを使うことにより児童生徒が成長したことを実感し感動した時に、AT・ICTを活用する必要性を再認識する。そのため研修には、AT・ICTに関する座学研修だけではなく実感と感動を伴う体験型研修を行うことが必要である。

本校では夏季休業中に集中研修会を行っているが、その一つに「WISHプロジェクト」というものがある。これは、「外出という社会参加を通して、児童生徒が自分の希望を表明し主体的に実現に取り組む力の育成を狙いとした教育活動」と定義される体験型研修である（谷口ら、2011）。これまでも生徒たちが「楽器屋に行って、自分好みのギターを探したい」などの願いを、必要に応じて周囲の支援を受けながら実現させてきた（図2）。

外出活動をするためには、移動手段や目的地に関する情報収集が必要となる。そこで、タブレット型端末等を活用しながら外出に必要な情報を収集することとなる。また、外出先にもタブレット端末を持ち出し、現地で目的地を「マップ」のアプリで検索したり友達とのメールのやりとりをしたりすることで、現地で外出活動を楽しむことができる。教員は児童生徒のタブレット型端末の活用方法を指導することを通じて、着実にAT・ICTに関するスキルや知識を高めることができる。



図2 WISHプロジェクトの一場面

近年、WISHプロジェクトは富士通株式会社から11台のタブレット端末を借り受け、共同で取り組みを行っている。平成25年度10月には、香川から遠く離れた東京において、1泊2日のウィッシュプロジェクトを実施した。

「東京ウィッシュ」と名付けたこの取り組みでは、東京在住の知り合いからお台場や秋葉原周辺の情報を得ることで、本人の希望に沿った外出計画を自ら立てることができた。また、富士通株式会社が開発した独自の交流サイトやFace book等も活用して、いろいろな人と交流することができた。さらに、東京の特別支援学校に通っている同年代の生徒との交流もできた。香川と東京という物理的に離れた人との交流経験を通じて、AT・ICT機器の有効性を生徒と教員が実感することとなった。

「東京ウィッシュ」を通じて、高松市内でも一人で行動することに苦手意識をもっていた生徒が、池袋の雑踏の中をタブレット型端末を活用しながら一人で移動する姿に驚きを覚えた。また、日頃は自分の気持ちを表現することが少ない生徒が、お台場のガンダムを目の当たりにして喜びを爆発させる姿に驚いた。生徒が変化し成長する姿を見て、

研修に参加した教員も感動を覚えた。

また、「東京ウィッシュ」を企業と共同で行ったことで、ネット会議などの方法など最新のスキルを学ぶことができ、教員のAT・ICTに関する知識やレベルは格段に向上した。さらに、借り受けた11台のタブレット端末を校内での教育活動にも活用することで、学校全体としてAT・ICTの活用を進めることができた。

タブレット端末を活用した生徒の活動と成長を目の当たりにし「感動」することは、さらなるAT・ICTの活用の原動力となるのである（図3）。



図3 感動を伴う研修イメージ

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「B-292 特別支援学校（肢体不自由）のAT・ICT活用の促進に関する研究—小・中学校等への支援を目指して—」（平成26年3月）、39-40に記載された内容である。